

| | |
|-------|-----------------|
| 主要施策 | 産業の充実と活力あるまちづくり |
| 施策の柱 | 4 地産地消と消費拡大の推進 |
| 施策の分類 | 農業の振興 |

■ 現状と課題

○地産地消の推進

道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」では、つがるにしきた農協鶴翔支店の「クリーンライス部会」が生産した青森県特別栽培農産物認証米「鶴の輝き」や転作作物として生産された大豆、小麦を道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」内の大豆・米加工施設で米粉パン、豆腐、みそ及びテンペ等にして販売し好評を得ています。

また、つがるにしきた農協鶴翔支店では、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」内にある「農産物直売コーナー」のほか、隣接する「ふれっしゅショップ」で会員が生産した野菜や果物などを販売し、売上額が年間1億4千万円を超えるまでに成長しています。

いずれも「朝ごはん条例」の基本方針の1つである、町において生産された農産物の当該地域における消費「地産地消」を推進しています。

○学校給食における取り組み

町では、安全・安心な地場産品のコメ、リンゴ及び野菜などを学校給食に提供するなど、地元農産物に対する理解を深めてもらうため、生産農家、農事振興会、学校給食応援隊等の各種団体と連携しながら、「朝ごはん条例」の基本方針である、「安全・安心な農産物の供給」、「地産地消の推進」、「食育推進の強化」を展開しています。

主な、学校給食への提供団体として、JAつがるにしきた鶴翔ブドウ部会、おうとう栽培研究会、学校給食応援隊があり、中でも学校給食応援隊は自らが生産した農産物とJAつがるにしきた鶴翔トマト部会が栽培したトマトを原料に作ったケチャップを提供し、地域の関係団体が一体となって地産地消を進めています。

この取り組みにより、平成23年度学校給食献立コンクールでは、地元食材を使ったバランスの良い献立づくりとして、鶴田小学校が準グランプリを受賞しています。

○イベント等における消費拡大

毎年8月に「つるたまつり」のイベントとして行われる「龍巻寿司」で青森県特別栽培農産物認証米「鶴の輝き」を使用し、コメの消費拡大を進めています。

さらに、秋に開催される町民文化祭では、JAつがるにしきた鶴翔支店や「鶴田町みどりの会」が中心となって地場農産物を販売し、地産地消と消費拡大を図っています。

また、県外においても「ふるさと鶴田会」や神奈川県川崎市の「かわさき市民祭り」等で地場産品を宣伝・販売する活動を展開しています。

産直での売上額

JA つがるにしきた鶴翔農産物直売コーナー友の会

| 年度 | 会員数 | 売上金額 |
|------|------|----------|
| 18年度 | 113名 | 113.2百万円 |
| 19年度 | 113名 | 113.4百万円 |
| 20年度 | 114名 | 110.9百万円 |
| 21年度 | 114名 | 124.2百万円 |
| 22年度 | 112名 | 122.8百万円 |

ふれっしゅショップ

| 年度 | 会員数 | 売上金額 |
|------|-----|---------|
| 18年度 | 37名 | 14.0百万円 |
| 19年度 | 37名 | 15.6百万円 |
| 20年度 | 36名 | 15.7百万円 |
| 21年度 | 34名 | 16.2百万円 |
| 22年度 | 33名 | 18.0百万円 |
| 23年度 | 31名 | 17.7百万円 |

■ 目指す姿（基本方針）

- 「朝ごはん運動」のさらなる進展を図り、誰もがいつでも気軽に地場産品を購入できる農業のまちを目指します。
- 学校給食のほとんどの食材が地場産品で賄える農業のまちを目指します。

■ 施策の内容

- 「朝ごはん条例」の基本方針である「地産地消」の強化を進めていきます。
- 安心・安全な地元の農産物を町の小売店などに協力してもらい、販売店の増加を進めます。
- 子どもたちに、地元食材の理解を深めるための献立づくりと、調理実習を進めます。
- コメの消費拡大を図るため、米粉料理の普及啓発を進めます。
- 学校給食の献立に多く使われる農産物の生産拡大を進めます。
- 道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」の産直コーナー等への農産物供給体制を強化し、販売増加を図ります。

担当：産業観光課